



22:1 さて、過越の祭りと言われる、種なしパンの祭りが近づいていた。

22:2 祭司長、律法学者たちは、イエスを殺すための良い方法を探していた。彼らは民を恐れていたのである。

22:3 ところ、十二人の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンが入った。

22:4 ユダは行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのようにしてイエスを彼らに引き渡すか相談した。

22:5 彼らは喜んで、ユダに金を与える約束をした。

22:6 ユダは承知し、群衆がいなるときにイエスを彼らに引き渡そうと機会を狙っていた。

22:7 過越の子羊が屠られる、種なしパンの祭りの日 came。

22:8 イエスは、「過越の食事ができるように、行って用意をなささい」と言って、ペテロとヨハネを遣わされた。

22:9 彼らがイエスに、「どこに用意しましょうか」と言うと、

22:10 イエスは言われた。「いいですか。都に入ると、水がめを運んでいる人に会います。その人が入る家までついて行きなさい。

22:11 そして、その家の主人に、『弟子たちと一緒に過越の食事をする客間はどこか、と先生があなただに言うておりました』と言いなさい。

22:12 すると主人は、席が整っている二階の大広間を見せてくれます。そこに用意をなささい。」

22:13 彼らが行ってみると、イエスが言われたとおりであった。それで、彼らは過越の用

意をした。

ユダに関してはイエス様を裏切った動機が色々に推察されています。聖書では「サタンがいった」と書かれています。様々な事情や動機などが交錯するものが罪の背景にあります。それが本質なのです。

私たちはサタンに立ち向かいましよう。そのために、自分自身のみでできないので、主に助けを求め、信仰しなさい。自分で事情や理屈をつけなさい。自分を拒んでしまおう。サタンに勝つことは主のみを拒んでしまったのです。過越の食事はそれを旧約の教えに則したもので、イエス様はそれを廃棄するために来られたのではなく、律法を完成させるため来られたのです。人間は神様がなさすこと、それには無理だと思ひ込むことがありますが、神様は御自身に矛盾のない方です。主に反論するよう、どのよう

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にご適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

